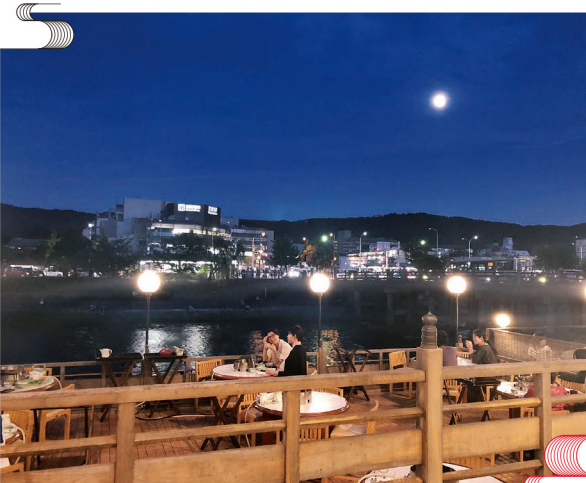


あかいま

わが町、わが店、この道一筋。出逢いとコミュニケーション あかい新聞店ホームページ <http://www.akai-shinbun.com> <発行所>あかい新聞店 武蔵店/知多郡武蔵町字金下37番地 電話 0569-72-0356



ひいさま 藤間勘翠

NO.002

鴨川の床涼み〜六月〜

風そよぎ、水とたわむる、夏の夕暮れ

京の町では、五月の初めから九月の終わりでまで、水辺に木のやぐらを組んで、涼をとる習慣がある。貴船や鞍馬の奥座敷では「川床」と書いて「かわどこと」呼ぶが、鴨川沿いは「かわゆか」と呼んでいる。二条大橋より五条大橋の辺りまで、百軒を数えるお店の床が鴨川沿いにずらりと立ち並ぶ。畳に座卓の設えもあれば、板張りにパラソルテーブルの設えもあり。川床めぐりは初夏の京都の楽しみのひとつだ。

床ごはん食べをしながら鴨川を見下ろすと、目に映るのは川べりに並んで座る恋人たち。可愛らしい少年少女から熟年カップルまで、ものの見事に等間隔に並んでいる光景は、酔客さえも唸らせる。恋の神様の物差しによる采配か。

七月の初旬、この川床で舞妓さんをあけて宴を楽しむのが、京の旦那衆のステイタス。その後は必ず涼しい室内で次のお席を設えてあげる。「暑かつたなあ、ようよう涼みや。」京の旦那衆はなんと女性に優しいことか。川床だけに、家の外での話ではあるが。

ひいさま (松根裕美)

京都生まれ、京都育ち。
学生時代は日英を問わず語学や作文に多く携わる。高校時代、裏千家主筆学校茶道連体編み文コンテストにて優秀賞受賞。第18回東洋大学ハイレベルコンテストで、京都私学ESOS主催英語編み大会優勝、英語弁論大会優勝。大学時代、世界遺産「下鴨神社」で十二単王朝舞を学び、名月賞総務で舞を奉納。現在は京がたりの舞台活動に加え、一般社団法人さきのカラーコーディネーター協会認定講師として、きもの色・ことばに関わる各職人レッスンなど、地方や海外からも生徒が訪れる人気講座を運営。
Instagram @hiromimatsune

藤間勘翠

1958年に名古屋で生まれ、1977年にデビュー。
日本舞踊家(宗家 藤間流 名跡)/美術としてNHK「日曜美術館」の「花の舞、花の宴」、東宝志村(東京大学名誉教授)との「見心伝心 歌舞伎伝心」、久田舞一郎(小説家 大森15代宗家)との「秋の舞」など放送や舞台に数多く携わる。作/編曲家として「世界デザイン博覧会」テーマ館音楽、名古屋芸術祭主催公演テーマ曲、関西二階会オペラ、合唱曲「弥陀観音大勢至」(深井丸 関西西所蔵)、「おとほぎ」(あいちオカリナ フェスタテーマ曲)、音楽版「浄土真宗 正信傳草四目下」(光善山 阿彌陀所蔵)などを手がける。名古屋音楽大学 音楽学部 作曲学科卒業、日本福祉大学 社会福祉学部を経て、現在、東洋学園大学 教育学部にて講義。



ひいさま 藤間勘翠 幻燈館
「鴨川の床涼み」動画を YouTube でご覧いただけます。
QRコードを読み取っていただくか、「ひいさま床涼み」で検索して下さい。



ひいさま 藤間勘翠の
ホームページはこちら

